

1. カンボジア 国民議会選挙関連情報—その1

8/12、カンボジア中央選挙管理委員会は、7/28に行われた国民議会選挙(定数 123 議席)の結果を、与党カンボジア人民党が 67 議席、野党救国党(旧サム・ランシー党と旧人権党)が 56 議席と発表した。また8/18には、これ以上の不正調査を行わないと発表した。与党は 90 議席から 23 議席を失い、また野党は 29 議席からの大躍進と言う結果になった。今回の選挙は、当初与党であるカンボジア人民党の順当な議席数獲得が予想されていた。しかし7/19に救国党の党首のサム・ランシー氏が亡命先のフランスからカンボジアに舞い戻ると状況は一変した。

サム・ランシー氏は、2009年にカンボジア人民党政権の対ベトナム姿勢を非難し、ベトナムとの国境を定めるために、設置されていた杭を抜いたので、器物破損罪、民族間対立誘発罪に問われ、2010年に国会の不逮捕特権を剥奪された事から、フランスへ実質的に亡命をしていた。また本人不在のまま、欠席裁判により懲役 10 年の刑が言い渡された。その後、今年7/12にシハモニ国王の恩赦により帰国が許されたものの、本選挙への立候補は認められなかった。



そのサム・ランシー党首が帰国し、プノンペン・ポスト等のメディアでも「Hero's welcome for returning Rainsy(英雄の帰還)」などと大きく報道された。サム・ランシー氏がほぼ 4 年ぶりに、プノンペン国際空港に降り立つと、数千の民衆が空港から市内へと続く道で出迎えた。市内は支援者が「チェンジか、ノーチェンジか」と言う呼びかけを、スピーカーで繰り返し、それに対し群衆は「チェンジ!」と応答する光景が至る所で見られた。また教育省に勤める Le Hour(32)さんはプノンペン・ポスト紙に「今こそ変わる時です。オフィスではカンボジア人民党を支持していますが、本当はカンボ

ジア人民党の政策に対し、そこまで支持していません。

もしこの選挙が公正に行われれば、救国党が勝つでしょう」と話した。また、到着後にサム・ランシー氏は演説で「救国党が今回の選挙で勝つ事を信じています。そして我々の政策がこの国を救う事を約束します。我々はあらゆる矛盾点を正し、共に修正していきます」と歓声鳴り止まぬ 20,000 人近い群衆に向かって呼びかけた。加えて政策についても「私たちは人民党員を含め、全国民に医療の無償化を行います。またもちろん、人民党員だろうと 40,000 リエル(10 ドル)を年配の方々に配給し、人民党員に対しても、公務員の給与を 1 ヶ月 1,000,000 リエル(250 ドル)に上昇させます。縫製業の最低賃金も 150 ドルまで上昇させます」と話した。



それとは別に、国民に対する求心力の一つとなったのが、現政権に対するネガティブ・キャンペーンである。カンボジア人民党政権の腐敗、格差の是正、更にはベトナム優遇政策への批判、ベトナムからフーコック島(カンボジア語: Koh Tral)を取り返し、カンボジアからベトナム人を追い出すと言う過激な発言まで行い、カンボジア人のベトナム人に対する微妙な感情を煽った。その結果、都市部の若者層から圧倒的な支持を拡大していった。



またアンコール・ワットの町、シムリアップでも約 10 万人の人々がサム・ランシー氏を出迎えた。そこでは「アンコール・ワットは我々の物だ。ベトナムから取り返せ」とアンコール・ワットのチケット販売権等を有している Sokimex グループを暗に批判した。(Sokimex 社の親会社はベトナム)。その集会に参加したアンコール・ワットで飲み物を売る Riv Chi さん(25)は、「ベトナム人は私たちカンボジア人よりこのアンコール・ワット周辺で自由に商売ができます。私は毎日使用料を払っているのに、何故ベトナム人は払わないのですか」(※あくまで Riv さんの話であり、事実と異なる可能性もあります)と話した。

•8/08、首都に装甲車が展開? =大規模デモ警戒

8/08、与野党の対立が続く首都プノンペンに、重武装の装甲兵員輸送車や数百人規模の部隊が展開したと地元紙で報じられた。下院選をめぐるのは、与党カンボジア人民党と最大野党カンボジア救国党がともに過半数を制して勝利したと主張。救国党のサム・ランシー党首は、選挙の不正調査への国連の参加や同党の勝利が認められない場合には

「大規模デモを組織しなければならない」と述べており、部隊展開は反政府抗議行動に備えた動きとみられている。
※ただし新聞報道とは違い、市内に混乱はなく、ものものしい雰囲気はなかったという。

2. ストライキ関連情報

①選挙前、ストライキは下火に

7/16、社会問題相は、Pine Great 縫製工場で働いていた約 750 人の労働者に対して、国民議会選挙までに未払い賃金を支払う、と約束をした。今年の4月、Meanchey 地区にあるこの工場のオーナーは、給与などを未払いのまま逃亡した。労働者たちは未払い賃金の支払いと手当などを求めて抗議活動を行っていた。5月、工場側は彼らに対して未払い賃金を支払うと一旦約束をしていたものの、それを信じ工場に出向いた労働者達が目にしたのは、設備がなくなり空っぽになった工場だけであった。

7/16、社会問題相内でこの件を解決するために立ち上げられた委員会のメンバーのひとりである Touch Somuth 氏は、「労働者たちと面会をして、それぞれもらっていない額がいくらかをチェックしました。計算が本当であれば、サインをしてもらいました」と話した。委員会は工場に残っていた設備を集め、賃金を支払うために全て売り払った。また、今回の発表が政府への票を集めるための画策ではないのかと聞かれると、Touch Somuth 氏は、「選挙までにどうにかならなくとも、いずれにせよ労働者達にはきちんと賃金を支払います」、とだけ答えた。

38 歳の労働者 Sam Sophorn さんは、今回の知らせにワクワクしていると話し、「もうすぐお金がもらえるのですね。私の未払い賃金は 600~700 ドルあるはずですので、これを支払ってもらえれば故郷に帰って投票ができます」と続けた。政治アナリストの Lao Mong Hay 氏は、「今回の政府の未払い賃金の支払いの発表に関して、政治的狙いが 2 つある。ひとつは労働者による抗議活動や混乱を防いで選挙に備えるため、もうひとつは労働者の票を与党に集めるためだ」と話している。

②Asia Dragon(Garment)社の労働組合と企業間での話し合いに決着

7/26、Takeo 州の Asia Dragon 社で働く従業員達が起こした大規模な抗議活動は、5 時間にもわたる交渉により、結果として彼らの要求のほとんどが満たされることとなった。「彼らの要求は大部分が満たされたのですから、明日からは仕事に戻るでしょう」と、Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union(C.CAWDU)の Visal 氏は話す。Bati 地区にある工場においておよそ 2500 人が抗議活動を行なったことにより交渉は始まった。そしてその結果、労働者は残業を強いられないこと、交通費として月 9 ドルと、皆勤した月はボーナスとして 10 ドルが支払われることなどが決められた。昼食代に関してなど、まだ解決していない事項に関しては仲裁審議会に持ち越されると、Visal 氏は話した。

③Orange Trading 社、労働者の給与前借り要求を拒否

7/26、プノンペンの Orange Trading 社で働く従業員たちは、7/28に行われる国民選挙に備え、帰郷のために給料を前借りたいと会社に申し込んだが、拒否された。Orange Trading 社に勤めるある 30 歳の労働者によると、帰郷のため交通費が必要となり 1000 人以上の労働者が給料の前払いを要求したものの、会社側は、それは出来ないと労働者側に伝えた、とのことだ。「選挙のために私の故郷である Prey Veng 州に帰りたいのですが、そのためのお金がないのです。会社の決定に失望している労働者はたくさんいます。けれど仕事を失っては困るので、抗議することができません」と話している。Orange Trading 社からのコメントはまだない。

3. バイクタクシードライバーにヘルメット着用教育



カンボジアでヘルメット着用を義務づけるための努力を続けている National Road Safety Committee(NRSC)は、7/16の午前中にバイクタクシードライバー600 人を Cambodia-Japan Cooperation Centre(CJCC)に集め、質の高いヘルメットを全員に配り、道路でヘルメットを着用する重要性をレクチャーした。

カンボジア国内の道路では毎日 5 人が死亡しているにも関わらず、ヘルメットの着用率はいまだ低いままである、と今回のイベントを主催した WHO の Momoe Takeuchi さんは話す。「バイクタクシー運転手の 65%はヘルメットを着用していますが、そのうち乗客にも着用させているのはたったの 9%です」と彼女は話し、「警察が夜の巡回を終えたあとはヘルメットをはずす人が多い」、とも話した。

ヘルメットを無料で配布するまでに公共広告をいくつか流していたが、そのうちひとつは、ヘルメットを着用していなかった若いドライバーが、事故で頭に怪我をしたうえ、罰金を取られるという内容のものだが、同時に、もし彼らがヘルメットをしていたらどうだったか、といったメッセージが含まれている。またフン・セン首相が、交通事故の予防策を訴えるという広告もある。「全員が正しくヘルメットを着用しなくてはなりません。いつでも、どこでも、短距離でも。ドライバーと乗客の両方が」と彼はメッセージを送る。WHO で交通安全に関する問題を扱っている Dr Ratnak Sao 氏は、「乗客のヘルメット着用を義務付ける法令が現在出来つつある」と話した。

4. 上級プノンペン公務員の息子が3人死亡の交通事故

7/22夜、プノンペン市議会議員の息子が、モーターバイクの列に突っ込んで3人を即死させ、他3人に怪我を負わせた容疑で逮捕された。事故が起こったのは土曜の5時半、Meanchey州の国道1号線沿いだ。交通巡査は黒のレンジローバーを運転していた Bun Ratanakさん30歳をその場で逮捕した。「今回の事故は今週月曜日、裁判所に持ち込まれます」と Seng Chan thorn氏は話しをした。逮捕された運転手の父だと名乗る男は、「息子は視力に問題を抱えており、そのせいで急ハンドルを切ったのだ」と訴えている。彼は息子の解放を要求しているが、いまのところ解放はない。



5. タイ電力(RATCH)、カンボジアの発電所計画を断念

8/20、タイ電力会社ラチャブリ・エレクトリシティ・ジェネレーティング(RATCH)のボンディット最高経営責任者(CEO)は、カンボジアで計画していた発電所建設計画を断念すると述べた。計画では、国境に近いコーコン県からタイ東部に電力供給する予定だったが、タイ国内で独立発電事業者(IPP)が計5ギガワット(GW)の発電所を建設する方針で、カンボジアから買電する必要がなくなったと説明した。ラチャブリ社は昨年3月にカンボジアの電力会社KKパワーに50%出資し、現地に1.8GWの石炭火力発電所を建設する予定だった。同CEOによると、カンボジア国境からタイ東部まで総延長300~400キロの送電線網を構築する必要があるものの、タイ発電公社(EGAT)は国内の電力供給が十分なことを理由に、送電線網を整備しない可能性が高いと話した。

6. 中国の中信重工、タイ素材大手からカンボジアのセメント工場工事受注

8/17、中国のセメント設備・鉱山設備メーカーの中信重工機械(河南省洛陽市)は、タイ素材大手サイアム・セメント・グループ(SCG)からセメント工場の設計・調達・建設(EPC)業務を受注した。カンボジアに日産2500トンのセメント工場を建設する予定。

7. 山口の安原設備、カンボジアの開発計画の窓口に

カンボジアの首都プノンペン南部で進められている大型都市開発計画に、設備業の「安原設備工業」(山口県柳井市)が日系企業窓口として参画企業を募集している。この計画は首都プノンペン中心部から南方3キロにある総面積約2600ヘクタールの土地に50万人規模の新都心を開く「AZサテライト都市開発計画」で、同国政府の認可を受けた地元開発大手INGホールディングスが手掛けている。既に湿地地帯の造成作業に入っていて、約30年をかけて開発するという。

8. カンボジア投資は慎重さが必要、国際協力銀行参事役

8/21、国際協力銀行産業ファイナンス部門の奥山裕之参事役は、都内で開かれたセミナー「カンボジアの投資環境」で講演し、過去2年で日本企業の同国進出が相次いでいるものの、工業団地のインフラ整備がタイなどと比べて見劣りするなど、投資判断には慎重さが求められるとの見方を示した。

9. ベトナム、タイ、カンボジアへの旅行者に共通ビザ実現か

ベトナム首相提案のプランが実現すれば、ベトナム、タイ、カンボジアを訪れる外国人旅行者は、共通ビザを使えるかもしれない。ベトナム政府観光総局のホアン・ティ・ディエプ副局長によると、グエン・タン・ズン首相は、文化・スポーツ・観光相、外相、および関連機関に、これら3国を訪問する外国人旅行者に単一ビザを発行するプランを検討するよう要請した。

10. タイ商社、ラオス・カンボジアでコンビニ拡充

8/20、タイ商社ベルリ・ユカ(BJC)は、ベトナム・ホーチミン市で展開するコンビニエンスストア「ビズ・マート」を年内にラオスに出店する計画を明らかにした。2015年までにタイのほかミャンマーにも進出する予定で、東南アジアにおける小売事業を拡充強化する。

以上